

令和6年度府中市受託研究報告書

府中市の絶滅のおそれがある在来植物と
対策を要する外来植物のリスト

2025年3月

令和6年度府中市受託研究報告書

府中市の絶滅のおそれがある在来植物と対策を要する外来植物のリスト

— 目次 —

I. 背景と目的	1
II. 絶滅のおそれがある在来植物のリスト化	2
1. 方法	2
2. 結果	7
III. 対策を要する外来植物のリスト化	15
1. 方法	15
2. 結果	20
引用文献	27

作成者

吉川正人（東京農工大学 大学院 農学研究院）

藤岡由起子（東京農工大学 農学部 地域生態システム学科）

I 背景と目的

生物多様性国家戦略の方針に基づき、都道府県や市町村はそれぞれの地域の特性に応じた生物多様性の保全および持続的利用に関する基本的な計画（生物多様性地域戦略）を策定することが求められている。府中市では2015年（平成27年）に地域戦略である「府中の生物多様性を豊かにするはじめの一步」を定めたことにより、市内の生物多様性保全の取り組みを拡大し、2023年（令和5年）には、第3次府中市環境基本計画（府中市2023）に組み込むかたちで、あらたな生物多様性地域戦略を策定した。本報告は、この中で個別施策のひとつとして掲げられた「府中市版レッドリスト・ブルーリストの作成」を具体化したものである。

生物多様性の保全を図るうえで、絶滅リスクの高さはしばしば保護上の重要性の指標として用いられる。IUCN（国際自然保護連合）は、地球規模で絶滅のおそれがある生物種をリストアップしており、これは通称レッドリストと呼ばれている。国内においても全国版のレッドリストが作成され、国レベルで絶滅の危機にある生物が明らかにされてきた。しかし、生物多様性の損失の実態は地域ごとに異なっており、それぞれの地域スケールでの多様性の減少を止めることが、国全体ひいては地球規模での生物多様性の保全につながる。そのため、地域レベルでのレッドリスト作成の取り組みも盛んになっており、これまでに全都道府県でレッドリストが作成されたほか、市町村レベルでもレッドリストを作成する自治体が増えてきた。しかし、市町村レベルでは国や都道府県スケールでの評価をそのまま利用していたり、データによる裏付けが弱い場合も多い。この点、府中市の植物については、2000年代以降、市民による記録活動や市による生物多様性情報の蓄積の施策によって、市内の植物相の情報が高い解像度で蓄積されているため、具体的な分布や生育環境の情報に基づいた絶滅リスクの評価が可能である。

一方、地域の生物多様性を脅かすものとして、外来生物の問題がある。外来生物問題とは、意図的か非意図的に関わらず、本来はその地域に分布していなかった生物が人為的に持ち込まれ、野外で定着することによって引きこされる問題である。外来生物の影響は、生態系への影響にとどまらず、農林漁業など産業や人々の健康など社会・経済的な面にも及ぶ。この外来生物の問題に関しても、2005年に施行された外来生物法により、特定の外来生物の移動や飼育・栽培が規制されたほか、2015年には環境省と農林水産省によって「生態系被害防止外来種リスト」が作成され、侵略性の高い外来生物の拡散への対策が推奨されてきた。しかし、外来生物の問題も、絶滅のおそれがある生物の場合と同様、地域によって問題となる外来生物の種類や影響は異なるため、地域の実情に応じた対策が必要である。このような観点から、レッドリストに続いて、侵略性の高い外来種や防除を推進すべき外来種をリスト化した「ブルーリスト」を作成する自治体が増えてきている。本市でも、地域を代表する生態系である雑木林や多摩川河川敷への影響、農地や市民の健康への影響を考慮した外来種対策が求められる。

本報告では以上のような背景を踏まえ、府中市に生育する維管束植物（シダ植物、種子植物）を対象に、これまでに蓄積された植物相に関する資料を活用し、府中市の「絶滅のおそれがある在来植物のリスト」と「対策を要する外来植物のリスト」を作成した。

II 絶滅のおそれがある在来植物のリスト化

1. 方法

府中市内に生育する在来植物の保護上の重要性を評価するため、国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストにおけるカテゴリ（図1）を用いた。これは対象地域における種の絶滅の危険性をランクづけしたもので、環境省が作成した日本全国のレッドリスト（環境省 2020）や東京都のレッドリスト（東京都環境局 2023）でも準用されている。これらのカテゴリのうち、全国版や東京都版のレッドリストでは「低懸念（LC）」は用いられていないが、府中市ではすべての在来植物を評価対象としたため、当面は絶滅のおそれがないと判断したものは、このカテゴリに分類した。府中市における各カテゴリの概念は表1に示す。

重要性の評価は、府中市内から得られた1970-80年代の記録と2000-20年代の記録を用いて行った。まず、過去と現在の記録の比較から絶滅した可能性が高い種を抽出した。現在も生育しているものについては、記録から客観的に判定される希少性に基づいて仮のカテゴリ区分を行い、生育環境や個体数に及ぼす外的要因を加味して最終的なカテゴリを決定した（図2）。評価の具体的プロセスを以下に示す。

（1）評価対象種の選定

評価の対象は、『府中市史 自然編』（府中市 2024）の編纂の過程で整理された1970年代以降の植物相調査や植生調査、あるいは標本記録などで、府中市内での分布が確認されている在来種とした。ただし、本来は府中市周辺には分布しておらず、人為的に持ち込まれたものが逸出拡大したとみられるものは、国内外来種として対象から除いた。

（2）絶滅種の判定

1970-80年代前半に記録があるが、2000年代以降には記録がない種は、少なくとも20年以上にわたって府中市に生育していないため、市内からは絶滅したものとみなした（EX）。このうち完全な野生状態のものはみられないものの、自生地から移植されたものが管理下で生存しているものは野生絶滅（EW）とした。

（3）希少性の判定

2000年代以降の記録がある種のうち、①分布地点（記録された町丁目）、②生育環境（植生タイプによって区分したハビタット）、③局所個体群サイズ（1か所に生育する個体数）の情報がそろったものを希少性評価の対象とし、それ以外の場合は情報不足（DD）として希少性の評価はおこなわなかった。①②③の情報が取得できた種について、Rabinowitz（1981）の方法による希少性の分類を行った。これは生物の地理的分布範囲（広／狭）、ハビタット特異性（高／低）、局所個体群サイズ（大／小）を指標として、希少性を評価するもので（図3）、設定した閾値よりも分布範囲が狭い、特定のハビタットにしか生育しない、個体数が少ないといった特性をもつ種を希少性が高いとみなすものである。ここでは、それぞれの項目を以下の基準で判断した。

①地理的分布範囲

府中市の147町丁目を面積がなるべく均等になるように58区域に整理し、それぞれの植物種の出現区域数をカウントした。区域数の10%未満である5区域以下にしか出現しなかった種を、「地理的分布範囲が狭い」と判断した。

②ハビタット特異性

それぞれの植物が記録に含まれる植生調査資料や、記録された場所の情報から、ハビタットを次の18タイプに分類した。a. 落葉広葉樹林, b. 常緑広葉樹林, c. 河辺林, d. 針葉樹人工林・竹林, e.刈取草地, f. 林縁(マント群落), g. 林縁(ソデ群落), h. 伐跡・崩壊地, i. 河辺砂礫地, j. 河辺冠水草地, k. 水田, l. 水田畦畔, m. 畑地, n. 路傍・耕作放棄地, o. 芝草地・庭園, p. 踏み跡, q. 空地・造成地, r. 流水中。これら18ハビタットのうち10%未満である1ハビタットにしか出現しなかった種を、「ハビタット特異性が高い」と判断した。

③局所個体群サイズ

生育地での観察に基づき、局所個体群サイズを次の3段階に区分した。1: 単独または小集団で生育し栄養繁殖では広がっていないもの, 2: 小集団で生育することが多く栄養繁殖で広がるものがあるもの, 3: 大集団で生育することが多い、または栄養繁殖により広範囲を被覆するもの。これらのうち、個体群サイズ1のものを「局所個体群サイズが小さい」と判断した。

以上の結果から、希少性があると判断された項目数に応じて、以下の通り仮のカテゴリを割り当てた(図3)。

3 指標 (NSS) : 絶滅危惧 I B 類 (EN)

2 指標 (NSL, NGS, WSS) : 絶滅危惧 II 類 (VU)

1 指標 (NGL, WSL, WGS) : 準絶滅危惧 (NT)

0 指標 (WGL) : 低懸念 (LC)

(4) 絶滅リスク要因の評価

希少性の高さは絶滅の危険性の重要な指標であるが、現時点の希少性だけでは絶滅の危険性を十分に評価することはできない。希少性が同程度であっても、破壊されやすいハビタットに生育する種や、観賞価値や経済的価値が高く採取される可能性が高い種は、より絶滅のリスクが高いといえる。逆に希少性が高くても、生育地が保護されていて将来にわたって維持されることが保証されている場合や、気候の温暖化や人為的利用の停止による環境の変化がその植物の生育に正の影響を与える場合は、絶滅のリスクは低くなる。そこで、個体数の増減に影響する外的要因を考慮することとし、評価対象種が表2に示す増加要因、軽減要因の各項目に該当するかどうかを検討した。増加要因のうち1つ以上に該当するものは、(3)で判定した仮カテゴリから1つ上位のカテゴリに移動した。また、軽減要因のうち1つ以上に該当するものは、仮カテゴリから1つ下位のカテゴリに移動した。これにより最終的なカテゴリを確定した。

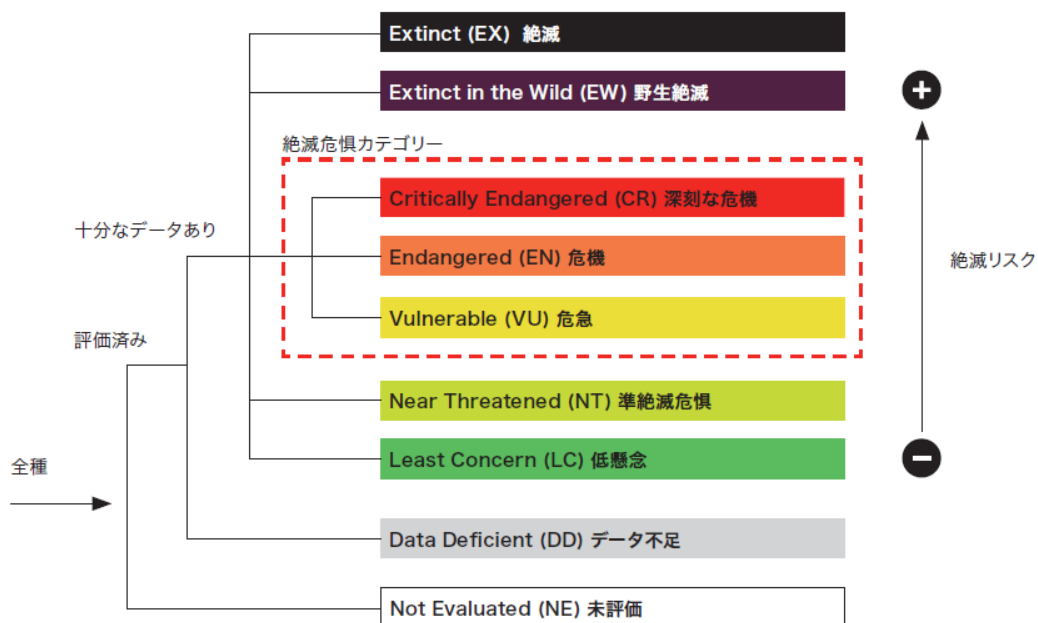


図 1. IUCN のレッドリストにおける絶滅リスクのカテゴリ区分 (IUCN 2012) .

表 1. 府中市レッドリストのカテゴリ区分. LC 以外の概念は東京都環境局 (2023) に準拠.

カテゴリ	略号	概念
絶滅	EX	府中市内において過去に生育していたことが確認されているが、すでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	府中市内において過去に生育していたことが確認されており、栽培下では存続しているが、野生のものはすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類		現在の状態をもたらした圧迫要因が持続する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性がきわめて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が持続する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」に移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
低懸念	LC	現在の生育地の状態が持続する限り、絶滅の危険性は低いと考えられるもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリに移行しうる属性を有しているが、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの。府中市内では真の自生かどうか判断できないものも含む。

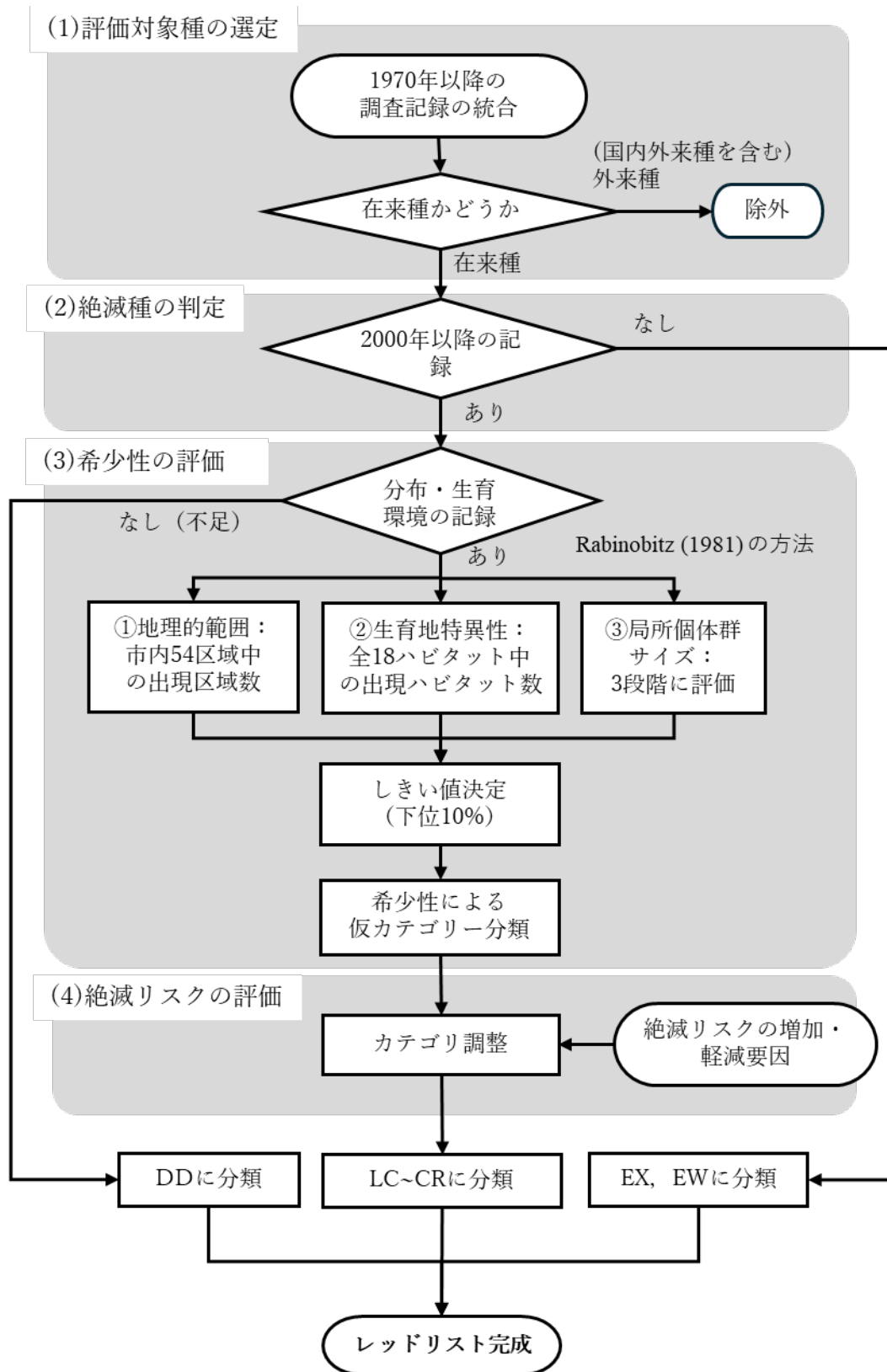


図 2. 絶滅のおそれがある在来植物の評価プロセス. 図中の番号(1)~(4)は本文の説明と対応する.

地理的範囲		広い(W)		狭い(N)	
		低い(G)	高い(S)	低い(G)	高い(S)
生育地特異性					
局所個体群	大きい(L)	WGL	WSL	NGL	NSL
サイズ	小さい(S)	WGS	WSS	NGS	NSS

仮カテゴリの割り当て


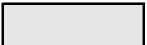

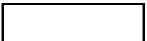
	絶滅危惧ⅠB類 (EN)		準絶滅危惧 (NT)
	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		低懸念 (LC)

図 3. Rabinowitz (1981)の希少性判定基準と府中市レッドリストにおける仮カテゴリの割り当て。

表 2. 絶滅リスクの増加・軽減要因

	項目	内容
絶滅リスク 増加要因	生育環境の消失	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な生育環境がすでに市内から失われている ・ 生育環境の消滅が危惧される ・ 自生地が破壊の危機にさらされている
	採集圧	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山野草として栽培の対象になっている ・ 花が目立つため採取されやすい
	近縁外来種との交雑	近縁な外来種との交雑が確認されており、 <ul style="list-style-type: none"> ・ その外来種が市内にも生育 ・ 外来種との交雑種と推定される個体が存在
	遷移の進行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑木林や刈取草地に生育し、遷移の進行による被陰やリターの堆積によって成長や開花が阻害されやすい
	個体数減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ すでに個体数を維持するのに必要な最低個体数を下回っていると考えられるもの
絶滅リスク 軽減要因	温暖化・都市化による影響	暖地性植物で、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気候の温暖化（特に暖冬化）により分布を拡大している ・ 2000年以降、個体数の増加傾向がみられる
	遷移の進行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雑木林や刈取草地の管理の粗放化による遷移の進行に伴い、生育適地が拡大している
	鳥散布による移入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥散布により市外から移入または分布拡大している

2. 結果

評価の結果、カテゴリ別の種数は、絶滅 (EX) 99 種、野生絶滅 (EW) 4 種、絶滅危惧IA 類 (CR) 79 種、絶滅危惧 I B 類 (EN) 54 種、絶滅危惧 II 類 (VU) 70 種、準絶滅危惧 (NT) 79 種、低懸念 (LC) 296 種、情報不足 (DD) 73 種となった (表 3)。評価対象とした 684 種のうち 15%にあたる 105 種が EX または EW となり、1970 年代以降に府中市内から多くの種が絶滅したことが明らかになった。また、現存する 579 種のうち 35%が VU 以上 (絶滅危惧種)、14%が NT (準絶滅危惧種) となり、在来種の約半数は市内から絶滅するおそれがあり、保護上の重要性を有すると判定された。とくに CR と判定された種のほとんどは、局所個体群を維持するために必要な最低限の個体数を下回っており、このままでは近い将来の絶滅は免れないと考えられた。情報不足により評価ができなかった種も含めると、さらに多くの種が絶滅の危機に瀕しているおそれがある。

府中市で NT 以上のカテゴリに分類された種が、より広域の東京都 (北多摩地区および本土部)、全国のレッドリスト (環境省 2020, 東京都環境局 2023) に掲載されているかどうかをみると、いずれのカテゴリでも広域のレッドリストには掲載されていない種が数多くリストアップされたことが明らかである。すなわち、東京都や日本全国といった広域スケールでは絶滅のおそれがない植物であっても、府中市という局所的スケールでみると、絶滅の危機に瀕した種が多数あることが示された。

表 3. 府中市のレッドリストのカテゴリ別種数と、広域版レッドリストの掲載種数.

	府中市	広域版RL掲載種数		
		北多摩	本土部	全国
EX	99	11	6	0
EW	4	1	0	0
CR	79	22	19	0
EN	54	35	45	1
VU	70	40	49	18
NT	79	26	32	14
LC	296	—	—	—
DD	73	13	4	0
非分布	—	1	0	—
留意種	—	1	1	—
データ無し	—	6	0	—
計	754	156	156	33

府中市の絶滅のおそれがある在来種のリスト

*「北多摩」「東京都」はそれぞれ『東京都レッドデータブック2023本土部』における北多摩地区と東京都本土部の評価。
「全国」は『環境省レッドリスト2020』における日本全国の評価。

【絶滅：EX】

科名	和名	学名	*広域版RLでのカテゴリ		
			北多摩	東京都	全国
ハナヤスリ科	ヒロハハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i>	EN	EN	
サンショウモ科	サンショウモ	<i>Salvinia natans</i>	CR	CR	VU
イノモトソウ科	イワガネソウ	<i>Coniogramme japonica</i>			
コウヤワラビ科	イヌガンソク	<i>Pentarhizidium orientale</i>			
コバノイシカグマ科	イヌシダ	<i>Dennstaedtia hirsuta</i>			
ホングウシダ科	ホラシノブ	<i>Odontosoria chinensis</i>	EN	EN	
ヒメシダ科	ヤワラシダ	<i>Thelypteris laxa</i>			
トチカガミ科	クロモ	<i>Hydrilla verticillata</i>	CR	CR	
トチカガミ科	セキショウモ	<i>Vallisneria natans</i>	EN	EN	
ヒルムシロ科	オヒルムシロ	<i>Potamogeton natans</i>	EX	EX	
ラン科	エビネ	<i>Calanthe discolor</i>	VU	NT	NT
ラン科	ムカゴサイシン	<i>Nervilia nipponica</i>	n.d.	CR	EN
ユリ科	コオニユリ	<i>Lilium leichtlinii f. pseudotigrinum</i>	CR	CR	
サルトリイバラ科	サルマメ	<i>Smilax biflora var. trinervula</i>			
サルトリイバラ科	タチシオデ	<i>Smilax nipponica</i>			
オモダカ科	ウリカワ	<i>Sagittaria pygmaea</i>	CR	CR	
イグサ科	タチコウガイゼキショウ	<i>Juncus krameri</i>	CR	CR	
イグサ科	アオコウガイゼキショウ	<i>Juncus papillosum</i>	NT	NT	
イグサ科	ホソイ	<i>Juncus setchuensis var. effusoides</i>	NT	NT	
イグサ科	ハリコウガイゼキショウ	<i>Juncus wallichianus</i>	DD	CR	
カヤツリグサ科	ホシナシゴウソ	<i>Carex maximowiczii var. levisaccus</i>	n.d.	CR	
カヤツリグサ科	ウシクグ	<i>Cyperus orthostachyus</i>			
カヤツリグサ科	ヤマイ	<i>Fimbristylis subbispicata</i>			
カヤツリグサ科	イトハナビテンツキ	<i>Bulbostylis densa</i>	NT	NT	
カヤツリグサ科	イトテンツキ	<i>Bulbostylis densa var. capitata</i>			NT
カヤツリグサ科	オニスゲ	<i>Carex dickinsii</i>			
カヤツリグサ科	カサスゲ	<i>Carex dispalata</i>			
カヤツリグサ科	クサスゲ	<i>Carex rugata</i>	EN	EN	
カヤツリグサ科	オニナルコスゲ	<i>Carex vesicaria</i>	EX	EX	
カヤツリグサ科	ヒメガヤツリ	<i>Cyperus tenuispica</i>	n.d.	EX	
カヤツリグサ科	ハリイ	<i>Eleocharis congesta var. japonica</i>			
カヤツリグサ科	アブラガヤ	<i>Scirpus wichurae</i>			
イネ科	ハネガヤ	<i>Achnatherum pekinense</i>	DD	VU	
イネ科	ムツオレグサ	<i>Glyceria acutiflora subsp. japonica</i>	VU	VU	
イネ科	キダチネズミガヤ	<i>Muhlenbergia ramosa</i>	DD	EN	
イネ科	オオアブラススキ	<i>Spodiopogon sibiricus</i>			
キンボウゲ科	ヤマトリカブト	<i>Aconitum japonicum subsp. japonicum</i>			
キンボウゲ科	アズマイチゲ	<i>Anemone raddeana</i>	CR	VU	
キンボウゲ科	イヌシヨウマ	<i>Cimicifuga biternata</i>			
マツモ科	マツモ	<i>Ceratophyllum demersum</i>	EN	EN	
メギ科	メギ	<i>Berberis thunbergii</i>			
メギ科	イカリソウ	<i>Epimedium grandiflorum var. thunbergianum</i>	EN	VU	
マメ科	クサネム	<i>Aeschynomene indica</i>	EN	EN	
マメ科	イヌハギ	<i>Lespedeza tomentosa</i>	EN	EN	VU
マメ科	ツルフジバカマ	<i>Vicia amoena</i>	EN	EN	
トウダイグサ科	ナツトウダイ	<i>Euphorbia sieboldiana</i>			
アカバナ科	アカバナ	<i>Epilobium pyrricholophum</i>			
アブラナ科	イヌナズナ	<i>Draba nemorosa</i>	NT	NT	
アリノトウグサ科	フサモ	<i>Myriophyllum verticillatum</i>	EX	DD	
カバノキ科	ケヤマハンノキ	<i>Alnus hirsuta var. hirsuta</i>			
カバノキ科	オオツノハシバミ	<i>Corylus sieboldiana var. mandshurica</i>			
カバノキ科	ツノハシバミ	<i>Corylus sieboldiana var. sieboldiana</i>			
ニレ科	ハルニレ	<i>Ulmus davidiana var. japonica</i>	DD	NT	
イラクサ科	カテンソウ	<i>Nanocnide japonica</i>	VU	VU	
イラクサ科	イラクサ	<i>Urtica thunbergiana</i>			
クロウメモドキ科	クロツバラ	<i>Rhamnus davurica var. nipponica</i>	EX	CR	
ニシキギ科	イワウメヅル	<i>Celastrus flagellaris</i>	CR	NT	
スミレ科	ナガバノスミレサイシン	<i>Viola bissetii</i>			
ツリフネソウ科	ツリフネソウ	<i>Impatiens textorii</i>			
ドクウツギ科	ドクウツギ	<i>Coriaria japonica</i>	EX	CR	
タデ科	ナガバノウナギツカミ	<i>Persicaria hastatosagittata</i>	EX	EX	NT
タデ科	ウナギツカミ	<i>Persicaria sagittata var. sibirica</i>			

タデ科	ネバリタデ	Persicaria viscofera var. viscofera			
ナデシコ科	フシグロ	Silene firma	EN	VU	
ナデシコ科	アズマツメクサ	Tillaea aquatica	EN	EN	NT
ヒユ科	ヤナギイノコズチ	Achyranthes longifolia	EN	EN	
ムラサキ科	ヤマリソウ	Omphalodes japonica	VU	NT	
ヤナギ科	ヤマナラン	Populus tremula var. sieboldii			
ヤナギ科	バッコヤナギ	Salix caprea			
ヤナギ科	キツネヤナギ	Salix vulpina subsp. vulpina			
ユキノシタ科	アカショウマ	Astilbe thunbergii var. thunbergii			
ウリ科	ゴキツル	Actinostemma tenerum	EN	EN	
オトギリソウ科	ミズオトギリ	Triadenum japonicum	EX	CR	
サクラソウ科	ノジトラノオ	Lysimachia barystachys	EN	EN	VU
アカネ科	キクムグラ	Galium kikumugura	n.d.	EN	
アカネ科	オオバノヤエムグラ	Galium pseudoasprellum			
アカネ科	ハナムグラ	Galium tokyoense	EX	EX	VU
リョウブ科	リョウブ	Clethra barbinervis			
オオバコ科	キクモ	Limnophila sessiliflora	EN	EN	
ハエドクソウ科	ミゾホオズキ	Mimulus nepalensis	VU	NT	
ハマウツボ科	クチナシグサ	Monochasma shearerii	VU	VU	
ハマウツボ科	ハマウツボ	Orobanche coerulescens	DD	DD	VU
ハマウツボ科	コシオガマ	Phtheirospermum japonicum	VU	VU	
ハマウツボ科	ヒキヨモギ	Siphonostegia chinensis	DD	EN	
キツネノマゴ科	ハグロソウ	Peristrophe japonica var. subrotunda	VU	NT	
ゴマノハグサ科	フジウツギ	Buddleja japonica	EX	NT	
ゴマノハグサ科	ゴマノハグサ	Scrophularia buergeriana	DD	DD	VU
サギゴケ科	ヤマサギゴケ	Mazus miquelii var. Rotundifolius			
シソ科	ヤブムラサキ	Callicarpa mollis			
シソ科	ヒキオコシ	Isodon japonicus	EX	VU	
シソ科	ケナシイヌゴマ	Stachys aspera var. japonica			
リンドウ科	コケリンドウ	Gentiana squarrosa	EN	EN	
キク科	サウヒヨドリ	Eupatorium lindleyanum var. lindleyanum			
キク科	カセンソウ	Inula salicina var. asiatica	CR	EN	
キク科	ハナニガナ	Ixeridium dentatum subsp. nipponicum var. albiflorum f. amplifolium			
キク科	ナガバコウヤボウキ	Pertya glabrescens			
キク科	オナモミ	Xanthium strumarium subsp. sibiricum	EX	EX	VU
スイカズラ科	ハコネウツギ	Weigela coraeensis			
ガマズミ科	ヤブデマリ	Viburnum plicatum var. tomentosum			

【野生絶滅：EW】

キンボウゲ科	ニリンソウ	Anemone flaccida var. flaccida	NT	NT	
サクラソウ科	ヌマトラノオ	Lysimachia fortunei	VU	VU	
キク科	キクタニギク	Chrysanthemum seticosus f. boreale	EN	NT	NT
スイカズラ科	オミナエシ	Patrinia scabiosifolia	DD	EN	

【絶滅危惧ⅠA類：CR】

ヒメシダ科	ハリガネワラビ	Thelypteris japonica			
ヒメシダ科	ヒメシダ	Thelypteris palustris			
オンシダ科	ホソバナライシダ	Arachniodes borealis	CR	VU	
オンシダ科	ミサキカグマ	Dryopteris chinensis			
イチイ科	カヤ	Torreya nucifera			
クスノキ科	クロモジ	Lindera umbellata var. umbellata			
ウマノスズクサ科	タマノカンアオイ	Asarum tamaense	EN	EN	VU
ヒルムシロ科	ヒルムシロ	Potamogeton distinctus	EN	EN	
ヒルムシロ科	ササバモ	Potamogeton wrightii	VU	VU	
ショウブ科	ミミガタテンナンショウ	Arisaema limbatum			
ヤマノイモ科	タチドコロ	Dioscorea gracillima			
ラン科	ギンラン	Cephalanthera erecta	EN	EN	
ラン科	オニノヤガラ	Gastrodia elata	EN	EN	
ユリ科	ホトトギス	Tricyrtis hirta	VU	VU	
ヒガンバナ科	ヤマラッキョウ	Allium thunbergii	CR	CR	
カヤツリグサ科	ケスゲ	Carex duvaliana			
カヤツリグサ科	ゴウソ	Carex maximowiczii var. maximowiczii			
カヤツリグサ科	ヒメゴウソ	Carex phacota var. gracilisipica	CR	CR	
カヤツリグサ科	モエギスゲ	Carex tristachya			
イネ科	コウボウ	Anthoxanthum nitens var. sachalinense	VU	VU	
イネ科	ヒメノガリヤス	Calamagrostis hakonensis			
イネ科	ドジョウツナギ	Glyceria ischyronera			
イネ科	アシカキ	Leersia japonica	EN	EN	

キンボウゲ科	キクザキイチゲ	Anemone pseudoaltaica	非分布	EN	
オトギリソウ科	オトギリソウ	Hypericum erectum var. erectum			
オトギリソウ科	コケオトギリ	Hypericum laxum			
バラ科	ツリバナ	Euonymus oxyphyllus			
バラ科	ズミ	Malus toringo	VU	VU	
マメ科	エビガライチゴ	Rubus phoenicolasius	CR	VU	
マメ科	カワラケツメイ	Chamaecrista nomame	VU	VU	
マメ科	シベリアメドハギ (カラメドハギ)	Lespedeza juncea			
ミカン科	オオバタンキリマメ (トキリマメ)	Rhynchosia acuminatifolia			
グミ科	ナツグミ	Elaeagnus multiflora var. multiflora			
トウダイグサ科	タカトウダイ	Euphorbia lasiocaula var. lasiocaula			
カバノキ科	ヤマハノキ	Alnus hirsuta f. sibirica			
カバノキ科	ハノキ	Alnus japonica	VU	VU	
ブナ科	イヌザンショウ	Zanthoxylum schinifolium			
マチン科	クリ	Castanea crenata			
ミソハギ科	アイナエ	Mitrasacme pygmaea	EN	EN	
ミゾハコベ科	ミズマツバ	Rotala mexicana	CR	CR	VU
ミツバウツギ科	ミゾハコベ	Elatine triandra	CR	CR	
ムクロジ科	ミツバウツギ	Staphylea bumalda			
モチノキ科	オニイタヤ	Acer mono var. ambiguum			
ニシキギ科	アオハダ	Ilex macropoda			
アジサイ科	マルバウツギ	Deutzia scabra var. scabra			
ユキノシタ科	チダケサシ	Astilbe microphylla	NT	NT	
ユキノシタ科	ネコノメソウ	Chrysosplenium grayanum	NT	NT	
スミレ科	ニオイタチツボスミレ	Viola obtusa			
キョウチクトウ科	オオカモメヅル	Vincetoxicum aristolochioides			
キョウチクトウ科	スズサイコ	Vincetoxicum pycnostelma	CR	EN	NT
ツツジ科	ウメガサソウ	Chimaphila japonica	EN	NT	
ツツジ科	ネジキ	Lyonia ovalifolia var. elliptica			
ツツジ科	ヤマツツジ	Rhododendron kaempferi var. kaempferi			
ツツジ科	ナツハゼ	Vaccinium oldhamii			
ハマウツボ科	ナンバンギセル	Aeginetia indica			
アゼナ科	アゼトウガラシ	Vandellia micrantha			
オオバコ科	アブノメ	Dopatrium junceum	EN	EN	
シソ科	ジュウニヒトエ	Ajuga nipponensis			
シソ科	メハジキ	Leonurus japonicus	VU	EN	
シソ科	ウツボグサ	Prunella vulgaris subsp. asiatica var. lilacina			
シソ科	アキノタムラソウ	Salvia japonica			
ナス科	マルバノホロシ	Solanum maximowiczii			
アカネ科	ヤマムグラ	Galium pogonanthum			
アカネ科	カワラマツバ	Galium verum subsp. asiaticum var. asiaticum f. lacteum	CR	EN	
モクセイ科	ケアオダモ	Fraxinus lanuginosa			
リンドウ科	リンドウ	Gentiana scabra var. buergeri	VU	NT	
キキョウ科	ツルニンジン	Codonopsis lanceolata var. lanceolata			
キク科	カワラヨモギ	Artemisia capillaris	DD	VU	
キク科	カワラノギク	Aster kantoensis	EW	EN	VU
キク科	リュウノウギク	Chrysanthemum makinoi			
キク科	ノアザミ	Cirsium japonicum var. japonicum			
キク科	カワラニガナ	Ixeris tamagawaensis	VU	VU	NT
キク科	センボンヤリ	Leibnitzia anandria			
キク科	アキノキリンソウ	Solidago virgaurea subsp. asiatica var. asiatica			
キク科	ヤブレガサ	Syneilesis palmata			
スイカズラ科	オトコエシ	Patrinia villosa			
スイカズラ科	ツルカノコソウ	Valeriana flaccidissima			
ガマズミ科	コバノガマズミ	Viburnum erosum var. erosum			
ガマズミ科	ゴマギ	Viburnum sieboldii var. sieboldii	EN	EN	

【絶滅危惧 I B類：EN】

コウヤワラビ科	コウヤワラビ	Onoclea sensibilis var. interrupta			
コウヤワラビ科	クサツテツ	Onoclea struthiopteris			
メシダ科	ヘビノネゴザ	Athyrium yokoscense			
メシダ科	ホソバシケシダ	Deparia conilii			
センリョウ科	ヒトリシズカ	Chloranthus quadrifolius			
ヒルムシロ科	エビモ	Potamogeton crispus	EN	EN	
ヒルムシロ科	アイノコイトモ	Potamogeton × orientalis			
ラン科	ササバギラン	Cephalanthera longibracteata	NT	NT	
ラン科	オオバノトンボソウ(ノヤマトンボ)	Platanthera minor var. minor			
ワスレグサ科	ゼンテイカ (ムサシノキスゲ)	Hemerocallis dumortieri var. esculenta	VU	VU	
キジカクシ科	オオバギボウシ (トウギボウシ)	Hosta sieboldiana var. sieboldiana			

カヤツリグサ科	クジュウツリスゲ	Carex kujuzana	CR	CR	NT
カヤツリグサ科	チュウゼンジスゲ	Carex longirostrata var. tenuistachya	CR	CR	
カヤツリグサ科	ホンモンジスゲ	Carex pisiformis	VU	VU	
カヤツリグサ科	アゼスゲ	Carex thunbergii var. thunbergii			
カヤツリグサ科	アオガヤツリ	Cyperus nipponicus var. nipponicus	NT	NT	
カヤツリグサ科	イガガヤツリ	Cyperus polystachyos			
イネ科	チゴザサ	Isachne globosa var. globosa			
イネ科	ハイヌメリ	Sacciolepis spicata var. spicata			
キンボウゲ科	ボタンヅル	Clematis apiifolia var. apiifolia			
キンボウゲ科	ウマノアシガタ	Ranunculus japonicus			
バラ科	キジムシロ	Potentilla fragarioides			
マメ科	ノササゲ	Dumasia truncata			
マメ科	フジカンゾウ	Hylodesmum oldhamii			
マメ科	レンリソウ	Lathyrus quinquevenerius	EN	EN	
マメ科	マキエハギ	Lespedeza virgata	VU	VU	
マメ科	クララ	Sophora flavescens	VU	VU	
マメ科	ナンテンハギ	Vicia unijuga			
イラクサ科	トキホコリ	Elatostema densiflorum	CR	EN	VU
アカバナ科	ミスタマソウ	Circaea mollis			
アブラナ科	ハタザオ	Turritis glabra	EN	EN	
アリノトウグサ科	ホザキノフサモ	Myriophyllum spicatum	DD	EN	
キョウチクトウ科	コバノカモメヅル	Vincetoxicum sublancoelatum var. sublancoelatum			
クロウメモドキ科	クマヤナギ	Berchemia racemosa			
クロウメモドキ科	ケンボナン	Hovenia dulcis			
タコノアシ科	タコノアシ	Penthorum chinense	NT	NT	NT
ニガキ科	ニガキ	Picrasma quassioides			
タデ科	コギシギシ	Rumex dentatus subsp. klotzschianus	VU	VU	VU
スミレ科	アカネスミレ	Viola phalacrocarpa var. phalacrocarpa			
ツツジ科	イチヤクソウ	Pyrola japonica			
オオバコ科	ミスハコベ	Callitriche palustris	EN	EN	
クマツヅラ科	クマツヅラ	Verbena officinalis			
シソ科	ヤマハッカ	Isodon inflexus			
シソ科	オドリコソウ	Lamium album var. barbatum			
シソ科	ミゾコウジュ	Salvia plebeia	VU	VU	NT
リンドウ科	フデリンドウ	Gentiana zollingeri			
ミズキ科	ヤマボウシ	Cornus kousa subsp. kousa			
セリ科	ウマノミツバ	Sanicula chinensis			
キキョウ科	ヤマホタルブクロ	Campanula punctata var. hondoensis			
キク科	ヒメシオン	Aster fastigiatus	EN	EN	
キク科	オケラ	Atractylodes ovata	VU	NT	
キク科	ヤマニガナ	Lactuca raddeana var. elata			
スイカズラ科	ヤマウグイスカグラ	Lonicera gracilipes var. gracilipes			
ウコギ科	ハリギリ	Kalopanax septemlobus			

【絶滅危惧II類：VU】

ゼンマイ科	ゼンマイ	Osmunda japonica			
チャセンシダ科	コバノヒノキンダ	Asplenium anogrammoides			
コバノイシカグマ科	イワヒメワラビ	Hypolepis punctata			
コバノイシカグマ科	ワラビ	Pteridium aquilinum subsp. Japonicum			
イノモトソウ科	オオバノイノモトソウ	Pteris cretica			
オンダ科	リョウメンシダ	Arachniodes standishii			
オンダ科	オオベニシダ	Dryopteris hondoensis			
オンダ科	イノデ	Polystichum polyblepharon			
センリョウ科	フタリシズカ	Chloranthus serratus			
クスノキ科	ヤブニッケイ	Cinnamomum yabunikkei			
クスノキ科	ヤマコウバシ	Lindera glauca			
ラン科	キンラン	Cephalanthera falcata	NT	NT	VU
ラン科	サイハイラン	Cremastra variabilis			
ラン科	シュンラン	Cymbidium goeringii			
ラン科	マヤラン	Cymbidium macrorhizon			VU
ラン科	タシロラン	Epipogium roseum			NT
ユリ科	アマナ	Amana edulis	VU	VU	
ユリ科	ヤマユリ	Lilium auratum var. auratum			
ガマ科	ヒメガマ	Typha domingensis			
ガマ科	コガマ	Typha orientalis			
トチカガミ科	コウガイモ	Vallisneria denseserrulata	EN	EN	
イグサ科	イグサ(イ)	Juncus decipiens			
カヤツリグサ科	ホソバヒカゲスゲ	Carex humilis var. nana	VU	VU	
カヤツリグサ科	コイトスゲ	Carex sachalinensis var. iwakiana			

カヤツリグサ科	クダマツリ	Cyperus compressus			
カヤツリグサ科	カンエンガヤツリ	Cyperus exaltatus var. iwasakii	NT	VU	VU
カヤツリグサ科	カワラスガナ	Cyperus sanguinolentus			
カヤツリグサ科	クログワイ	Eleocharis kuroguwai	n.d.	EN	
カヤツリグサ科	ヒンジガヤツリ	Lipocarpha microcephala			
カヤツリグサ科	イヌホタルイ	Schoenoplectiella juncooides			
カヤツリグサ科	フトイ	Schoenoplectus tabernaemontani			
イネ科	ウシノシッペイ	Hemarthria sibirica			
イネ科	ミノボロ	Koeleria macrantha	VU	VU	
イネ科	エゾノサヤヌカグサ	Leersia oryzoides	NT	NT	
イネ科	サヤヌカグサ	Leersia sayanuka			
イネ科	ササクサ	Lophatherum gracile			
イネ科	ウシクサ	Schizachyrium brevifolium			
キンボウゲ科	ハンショウヅル	Clematis japonica			
キンボウゲ科	タガラシ	Ranunculus sceleratus			
キンボウゲ科	キツネノボタン	Ranunculus silerifolius var. silerifolius			
バラ科	ヒメキンミズヒキ	Agrimonia nipponica			
バラ科	ダイコンソウ	Geum japonicum			
バラ科	ウウミズザクラ	Padus grayana			
バラ科	ニガイチゴ	Rubus microphyllus			
マメ科	マルバヌスビトハギ	Hylodesmum podocarpum subsp. podocarpum			
マメ科	ミヤコグサ	Lotus corniculatus var. japonicus			
グミ科	ツルグミ	Elaeagnus glabra			
カバノキ科	クマシデ	Carpinus japonica			
ブナ科	アラカシ	Quercus glauca			
ナデシコ科	ミミナグサ	Cerastium fontanum subsp. vulgare var. angustifolium			
ミカン科	コクサギ	Orixa japonica			
スミレ科	アリアケスミレ	Viola betonicifolia var. albescens			
ニシキギ科	コマユミ	Euonymus alatus f. alatus			
ハイノキ科	サワフタギ	Symplocos sawafutagi			
ビャクダン科	ヤドリギ	Viscum album subsp. coloratum			
コミカンソウ科	ヒトツバハギ	Flueggea suffruticosa	VU	VU	
トウダイグサ科	トウダイグサ	Euphorbia helioscopia			
トウダイグサ科	ニシキソウ	Euphorbia humifusa	NT	NT	
オオバコ科	アワゴケ	Callitriche japonica			
ハエドクソウ科	ナガバハエドクソウ	Phryma oblongifolia			
シソ科	イヌトウバナ	Clinopodium micranthum var. micranthum			
シソ科	イヌゴマ	Stachys aspera var. hispida			
モクセイ科	マルバアオダモ	Fraxinus sieboldiana			
セリ科	ノダケ	Angelica decursiva			
キク科	シロヨメナ	Aster leiophyllus var. leiophyllus			
キク科	コヤブタバコ	Carpesium cernuum			
キク科	ガンクビソウ	Carpesium divaricatum var. divaricatum			
キク科	ヤクシソウ	Crepidiastrum denticulatum			
キク科	コウヤボウキ	Pertya scandens			
ガマズミ科	ソクズ	Sambucus chinensis var. chinensis			

【準絶滅危惧：NT】

ハナヤスリ科	フユノハナワラビ	Botrychium ternatum var. ternatum			
ハナヤスリ科	コヒロハナヤスリ	Ophioglossum petiolatum	VU	VU	
ヒメシダ科	ミゾシダ	Thelypteris pozoi subsp. mollissima			
オンダ科	ヤマイトチシダ	Dryopteris bissetiana			
オンダ科	オオイトチシダ	Dryopteris hikonensis			
イチイ科	イヌガヤ	Cephalotaxus harringtonia var. harringtonia			
マツ科	アカマツ	Pinus densiflora			
オモダカ科	オモダカ	Sagittaria trifolia			
ラン科	クダマツラン	Cephalanthera longifolia			VU
ワスレグサ科	ノカンゾウ	Hemerocallis fulva var. disticha	NT	NT	
ヒガンバナ科	キツネノカミソリ	Lycoris sanguinea var. sanguinea	VU	VU	
キジカクシ科	アマドコロ	Polygonatum odoratum var. pluriflorum	EN	VU	
カヤツリグサ科	シロイトスゲ	Carex alterniflora var. alterniflora			
カヤツリグサ科	カワラスゲ	Carex incisa			
カヤツリグサ科	ヌカスゲ	Carex mitrata var. mitrata			
カヤツリグサ科	ヒナガヤツリ	Cyperus flaccidus			
カヤツリグサ科	ヌマガヤツリ	Cyperus glomeratus			
カヤツリグサ科	マツバイ	Eleocharis acicularis var. longiseta			
カヤツリグサ科	ヒメヒラテンツキ	Fimbristylis autumnalis			
カヤツリグサ科	テンツキ	Fimbristylis dichotoma var. tentsuki			
ミズアオイ科	コナギ	Monochoria vaginalis			

サトイモ科	ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>urashima</i>			
イネ科	ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>			
イネ科	ノガリヤス	<i>Calamagrostis brachytricha</i> var. <i>brachytricha</i>			
イネ科	オガルカヤ	<i>Cymbopogon tortilis</i> var. <i>goeringii</i>			
イネ科	アブラススキ	<i>Eccoilopus cotulifer</i>			
イネ科	ミスタカモジ	<i>Elymus humidus</i>	VU	VU	VU
イネ科	ナルコビエ	<i>Eriochloa villosa</i>			
イネ科	アゼガヤ	<i>Leptochloa chinensis</i>	VU	VU	
イネ科	アズマザサ	<i>Sasaella ramosa</i>	NT	NT	
イネ科	メガルカヤ	<i>Themeda barbata</i>	DD	VU	
ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	<i>Aristolochia debilis</i>	VU	VU	
キンボウゲ科	アキカラマツ	<i>Thalictrum minus</i> var. <i>hypoleucum</i>			
ケシ科	クサノオウ	<i>Chelidonium majus</i> subsp. <i>asiaticum</i>			
イラクサ科	ヤブマオ	<i>Boehmeria japonica</i> var. <i>longispica</i>			
イラクサ科	メヤブマオ	<i>Boehmeria platanifolia</i>			
イラクサ科	アオミズ	<i>Pilea pumila</i>			
バラ科	コゴメウツギ	<i>Neillia incisa</i>			
バラ科	イヌザクラ	<i>Padus buergeriana</i>			
バラ科	ミツバツチグリ	<i>Potentilla freyniana</i>			
バラ科	ワレモコウ	<i>Sanguisorba officinalis</i>			
マメ科	コマツナギ	<i>Indigofera bungeana</i>			
マメ科	ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>			
フウロソウ科	ゲンノショウコ	<i>Geranium thunbergii</i>			
ミカン科	サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>			
アカネ科	ハシカグサ	<i>Neanotis hirsuta</i> var. <i>hirsuta</i>			
アカネ科	フタバムグラ	<i>Oldenlandia brachypoda</i>	CR	EN	
アカネ科	アカネ	<i>Rubia argyi</i>			
アブラナ科	コイヌガラシ	<i>Rorippa cantoniensis</i>	NT	NT	NT
アブラナ科	ミチバタガラシ	<i>Rorippa dubia</i>			
カタバミ科	エソタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>			
ニシキギ科	ツルマサキ	<i>Euonymus fortunei</i>			
ビャクダン科	カナビキノウ	<i>Thesium chinense</i>			
ミツバウツギ科	ゴンズイ	<i>Euscaphis japonica</i>			
ヤナギ科	タチヤナギ	<i>Salix triandra</i> subsp. <i>nipponica</i>			
タデ科	サクラタデ	<i>Persicaria odorata</i> subsp. <i>conspicua</i>	VU	VU	
タデ科	ボントクタデ	<i>Persicaria pubescens</i>			
タデ科	ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>			
ナデシコ科	カワラナデシコ	<i>Dianthus superbus</i> var. <i>longicalycinus</i>	EN	EN	
サクラソウ科	オカトラノオ	<i>Lysimachia clethroides</i>			
ウリ科	スズメウリ	<i>Zehneria japonica</i>			
オオバコ科	カワヂシャ	<i>Veronica undulata</i>	VU	VU	NT
シソ科	ニガクサ	<i>Teucrium japonicum</i>			
モクセイ科	ヤマトアオダモ	<i>Fraxinus longicuspis</i>			
キキョウ科	ツリガネニンジン	<i>Adenophora triphylla</i> var. <i>japonica</i>			
キキョウ科	ホタルブクロ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>punctata</i>			
セリ科	ハナウド	<i>Heracleum sphondylium</i> subsp. <i>sphondylium</i> var. <i>nipponicum</i>			
キク科	オトコヨモギ	<i>Artemisia japonica</i> subsp. <i>japonica</i>			
キク科	ユウガギク	<i>Aster inumae</i>			
キク科	シラヤマギク	<i>Aster scaber</i>			
キク科	サジガクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>			
キク科	タイアザミ	<i>Cirsium comosum</i>			
キク科	ノハラアザミ	<i>Cirsium oligophyllum</i> var. <i>oligophyllum</i>			
キク科	ヒヨドリバナ	<i>Eupatorium makinoi</i>			
キク科	ニガナ	<i>Ixeridium dentatum</i> subsp. <i>dentatum</i>			
キク科	コウゾリナ	<i>Picris hieracioides</i> subsp. <i>japonica</i>			
キク科	カントウタンポポ	<i>Taraxacum platycarpum</i> var. <i>platycarpum</i>			
ガマズミ科	ニワトコ	<i>Sambucus racemosa</i> subsp. <i>sieboldiana</i> var. <i>sieboldiana</i>			
ウコギ科	ヒメチドメ	<i>Hydrocotyle yabei</i>			

【低懸念：LC】 東京都または全国のレッドリスト掲載種のみ

イネ科	セトガヤ	<i>Alopecurus japonicus</i>	NT	NT	
バラ科	カワラサイコ	<i>Potentilla chinensis</i>	VU	VU	

【情報不足：DD】 東京都または全国のレッドリスト掲載種のみ

イノモトソウ科	ヒメミズワラビ	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> var. <i>vulgaris</i>	CR	CR	
ヤマノイモ科	ニガカシュウ	<i>Dioscorea bulbifera</i>	NT	NT	
ユリ科	ヤマジノホトトギス	<i>Tricyrtis affinis</i>	NT	NT	
ガマ科	ミクリ	<i>Sparganium erectum</i>	NT	VU	NT

イグサ科	ヌカボシソウ	<i>Luzula plumosa</i> subsp. <i>plumosa</i>	n.d.	EN	
カヤツリグサ科	ウキヤガラ	<i>Bolboschoenus fluviatilis</i> subsp. <i>yagara</i>	VU	VU	
カヤツリグサ科	ヤマアゼスゲ	<i>Carex heterolepis</i>	DD	VU	
カヤツリグサ科	ヤガミスゲ	<i>Carex maackii</i>	VU	VU	
カヤツリグサ科	ミスガヤツリ	<i>Cyperus serotinus</i>	VU	VU	
カヤツリグサ科	コツブヌマハリイ	<i>Eleocharis parvinux</i>	CR	CR	VU
カヤツリグサ科	メアゼテンツキ	<i>Fimbristylis velata</i>	EN	EN	
イネ科	チョウセンガリヤス	<i>Cleistogenes hackelii</i>	NT	VU	
キンボウゲ科	イチリンソウ	<i>Aemone nikoensis</i>	NT	NT	
アブラナ科	タチタネツケバナ	<i>Cardamine fallax</i>	NT	NT	
ヤナギ科	コゴメヤナギ	<i>Salix dolichostyla</i> subsp. <i>serissifolia</i>	NT	VU	
ヤナギ科	ジャヤナギ	<i>Salix eriocarpa</i>	NT	VU	
ヒユ科	カワラアカザ	<i>Chenopodium acuminatum</i> var. <i>vachelii</i>	DD	DD	
キク科	タカサプロウ	<i>Eclipta thermalis</i>	留意種	留意種	

Ⅲ 対策を要する外来植物のリスト化

1. 方法

府中市内に侵入・定着している外来種について、生態系被害や社会経済的被害への対策を要する種の抽出を行った。環境省と農林水産省がまとめた「生態系被害防止外来種リスト」(<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>)では、「定着予防外来種」「総合対策外来種」「産業管理外来種」といったカテゴリを設けているが、ここでは府中市に行動指針の立案のしやすさを考慮して、「防除推進外来種」「影響監視外来種」「定着防止外来種」という3つのカテゴリを設定して評価を行った。カテゴリへの割り当てに際しては、市内でどの程度拡大しているかという定着度と、生態系および社会経済への被害リスクの組み合わせで行った。評価の具体的プロセスを図4に示す。

(1) 評価対象種の選定

評価の対象は、『府中市史 自然編』の編纂の過程で整理された2000年代以降の植物相調査や植生調査、あるいは標本記録などで、現在の府中市内で分布が確認されている外来種とした(吉川2024)。日本国内に自生する種であっても、府中市周辺には本来の分布はなく、府中市でみられるのは人為的に持ち込まれたものに由来すると考えられる種は、国内外来種として対象に含めた。

(2) 定着度の評価

2000年代以降の記録がある種のうち、①分布地点(記録された町丁目)、②生育環境(植生タイプによるハビタット)、③局所個体群サイズの情報があるものを定着度評価の対象とし、それ以外のは散発的にみられるものであることから、侵入期として扱った。①②③の情報が取得できた種について、Rabinowitz(1981)の評価基準を希少性評価の場合とは逆に使用し、地理的分布域が広く、ハビタット特性が低く、局所体群サイズが大きいものを、定着度が高いとみなした(図5)。

①地理的分布範囲

府中市の147町丁目を面積がなるべく均等になるように58区域に整理し、それぞれの植物種の出現区域数をカウントした。区域数の10%以上である6区域以上に出現した種を、「地理的分布範囲が広い」と判断した。

②ハビタット特異性

それぞれの植物が記録に含まれる植生調査資料や、記録された場所の情報から、ハビタットを次の18タイプに分類した。a. 落葉広葉樹林, b. 常緑広葉樹林, c. 河辺林, d. 針葉樹人工林・竹林, e. 刈取草地, f. 林縁(マント群落), g. 林縁(ソデ群落), h. 伐跡・崩壊地, i. 河辺砂礫地, j. 河辺冠水草地, k. 水田, l. 水田畦畔, m. 畑地, n. 路傍・耕作放棄地, o. 芝草地・庭園, p. 踏み跡, q. 空地・造成地, r. 流水中。これら18ハビタットのうち10%以上である2ハビタット以上に出現した種を、「ハビタット特異性が低い」と判断した。

③局所個体群サイズ

生育地での観察に基づき、局所個体群サイズを次の3段階に区分した。1: 単独または小集団

で生育し栄養繁殖では広がっていないもの、2：小集団で生育することが多く栄養繁殖で広がる
ことがあるもの、3：大集団で生育することが多い、または栄養繁殖により広範囲を被覆する
もの。これらのうち、個体群サイズ2以上のものを「局所個体群サイズが大きい」と判断した。

以上の結果から、定着度が高いと判断された項目数に応じて、以下の通りカテゴリを割り当
てた（図5）。

3 指標（WGL）：蔓延期

2 指標（WSL, WGS, NGL）：拡大期

1 指標（WSS, NGS, NSL）：定着期

0 指標（NSS）：侵入期

（3）被害リスクの評価

外来種の被害リスクについて、以下の3つの観点の10項目について検討した（表4）。該当す
る項目数に応じて10点満点のスコアを与え、被害リスクの指標として用いた。各項目に該当す
かどうかの検討にあたっては、既存文献や資料を参照するとともに、府中市内での生育状況の観
察に基づいて判断した。スコアが5以上のものを被害リスクが大きい種、3-4のものを被害リス
クが中程度の種、2以下のものを被害リスクが小さい種として扱った。

（4）対策の必要性の評価

最終的な対策の必要性については、（2）の定着度と（3）の被害リスクを組み合わせで評価し
（表5）、3つのカテゴリに分類した（表6）。リストに掲載するものは、被害リスクのスコアが3
以上の種とした。

①防除推進外来種

被害リスクのスコアが5以上で、定着段階が定着期、拡大期、蔓延期にあるもの。生態系的被
害や社会経済的被害のリスクが高い、あるいは現実に被害が生じているもの。積極的に防除す
ることが推奨されるが、すでに蔓延期にあり完全な除去が難しい場合には、影響が生じている範囲
での防除に取り組む。

②影響監視外来種

被害リスクのスコアが3-4で、定着段階が定着期、拡大期、蔓延期にあるもの。現時点では顕
著な被害が生じているとは言えないが、今後の拡大状況によっては積極的な対策が必要になる可
能性があるため、注意深く監視する必要がある。自然性の高いハビタット（樹林、草地、河川敷
など）で見つかった場合は早期に除去する。

③定着防止外来種

被害リスクのスコアが3以上だが、まだ定着段階が侵入期であり、本格的には定着していない
と考えられるもの。市内での定着・拡大を防ぐため、栽培品の逸出や、農業・園芸資材や土壌へ
の混入による拡散に注意する。

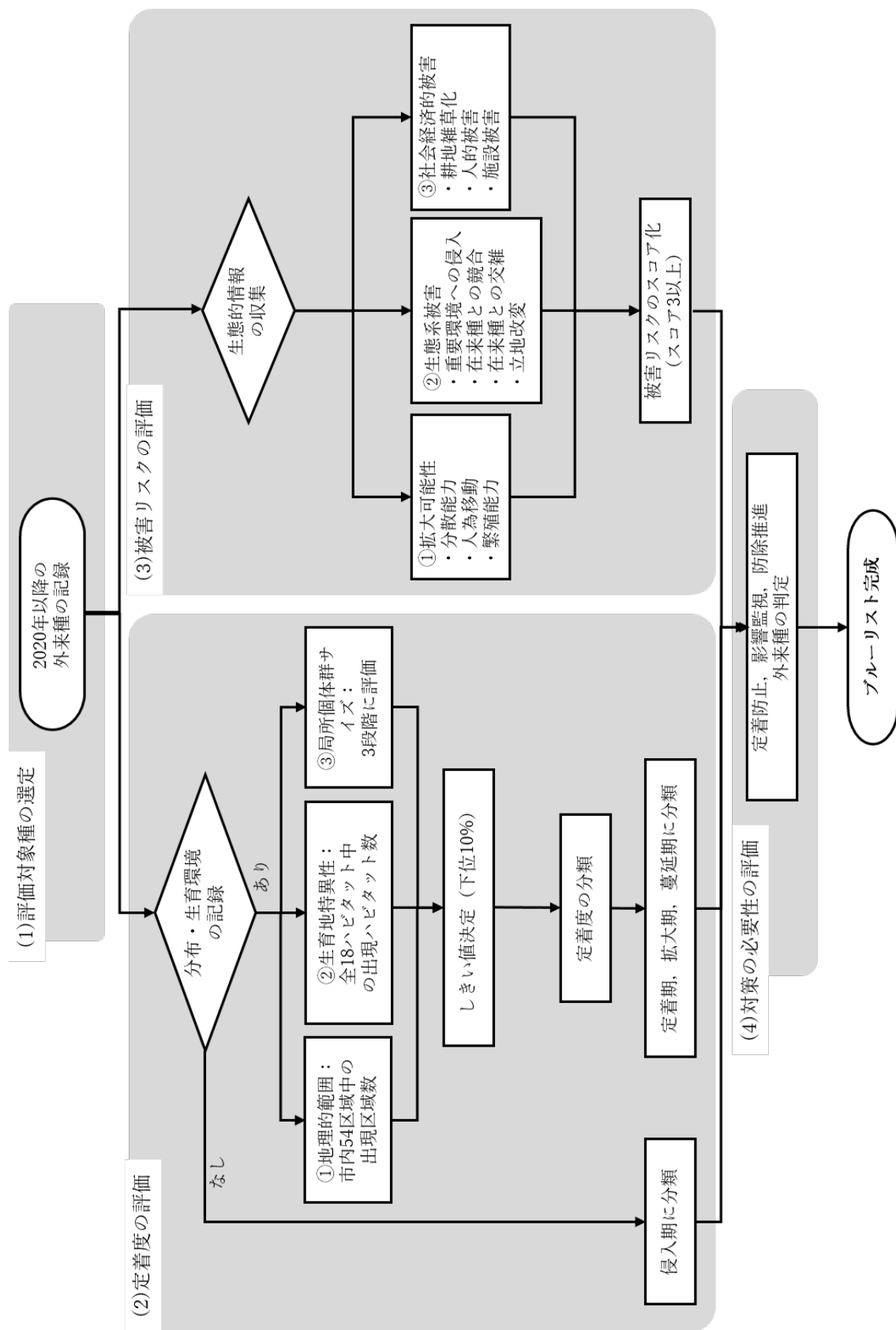


図 4. ブルーリストの評価プロセス. 図中の番号(1)～(4)は本文の説明と対応する.

地理的範囲		広い(W)		狭い(N)	
生育地特異性		低い(G)	高い(S)	低い(G)	高い(S)
局所個体群	大きい(L)	WGL	WSL	NGL	NSL
サイズ	小さい(S)	WGS	WSS	NGS	NSS

定着度

	蔓延期
	拡大期

	定着期
	侵入期

図 5. Rabinobitz (1981)の方法を用いた府中市ブルーリストにおける外来種の定着度評価

表 4. 外来種の被害リスクの観点と評価項目

観点	評価項目
拡大リスク (3項目)	【分散能力】 微細な種子, または風・水・鳥散布型の種子をもち, 分散能力が高い.
	【人為移動】 資材等への混入, 播種・植栽・投棄など人為的な影響での拡散が起りやすい.
	【繁殖能力】 地下茎による栄養繁殖や, 多量の種子生産によって定着する能力が高い.
生態系被害 リスク (4項目)	【重要ハビタットへの侵入】 樹林, 草地, 湿地, 河原など外来種が多く自然性の高いハビタットに侵入しやすい.
	【在来種との競合】 類似のハビタットに生育する在来種を競争的に排除するおそれがある.
	【交雑リスク】 近縁な在来種との交雑や繁殖干渉のおそれがある.
	【立地改変】 定着したハビタットの環境や遷移の方向を変化させることで, 他の在来種に影響を及ぼすおそれがある.
社会・経済的 被害リスク (3項目)	【耕地雑草化】 畑地, 水田, 畦, 果樹園, 芝生, 庭園等へ侵入し, 駆除が困難な雑草となるおそれがある.
	【健康影響】 花粉症の原因, 誤食による食中毒, トゲなどによる外傷の原因となる.
	【施設被害】 繁茂することにより, 農業水路や河川の通水阻害, 送電施設や鉄道施設など各種インフラの機能を阻害するおそれがある.

表 5. 定着度と被害リスクの組み合わせによる対策カテゴリの判定

		被害リスクのスコア		
		0-2	3-4	5<
定着度	蔓延期	-	影響監視	防除推進
	拡大期	-	影響監視	防除推進
	定着期	-	影響監視	防除推進
	侵入期	-	定着防止	定着防止

表 6. 外来種の対策カテゴリとその内容

カテゴリ	判定基準	概念と対策
防除推進外来種	定着期～蔓延期にあり，被害リスクのスコア5以上のもの	生態系的被害や社会経済的被害のリスクが高い，あるいは現実に被害が生じている．積極的に防除することが推奨されるが，すでに蔓延期にあり完全な除去が難しい場合には，影響が生じている範囲での防除に取り組む．
影響監視外来種	定着期～蔓延期にあり，被害リスクのスコアが3-4のもの	現時点では顕著な被害が生じているとは言えないが，今後の拡大状況によっては積極的な対策が必要になる可能性があるため，注意深く監視する必要がある．自然性の高いハビタット（樹林，草地，水辺など）で見つかった場合は早期に除去する．
定着防止外来種	侵入期にあり，被害リスクのスコアが3以上下のもの	市内への定着・拡大を防ぐため，野外で見つかった場合は早期に除去する．また，栽培品の逸出や，農業・園芸資材への混入，工事による土砂の移動などによる拡散に注意する．
(非掲載)	定着段階に関わらず，被害リスクのスコアが2以下のもの	

3. 結果

評価の結果、カテゴリ別の種数は、防除推進外来種 53 分類群、影響監視外来種 144 分類群、定着防止外来種 12 分類群の計 209 分類群となった（表 7）。これは府中市内で生育が確認されている外来植物の 2/3 以上にのぼった。

環境省と農林水産省が作成した「生態系被害防止外来種リスト」の掲載種との対応関係をみると、防除推進外来種では 31 分類群、影響監視外来種では 34 分類群、定着防止外来種では 5 分類群が、「総合対策外来種（緊急対策外来種、重点対策外来種、その他の重点対策外来種）」または「産業管理外来種」に位置づけられていた。それ以外の種は国レベルではリストに入っていないが、府中市内では対策や監視が必要な外来種と評価された。

防除推進外来種としたものには、コカナダモ、オオフサモのように繁茂によって農業水路など水利施設の機能を阻害する水生植物、外来ノアサガオ類やナガミヒナゲシのように新たな畑地雑草として拡大しているもの、オニウシノケグサ、ネズミムギ、イヌムギのように河川敷や耕作地周辺に拡大するイネ科牧草、ハナニラ、イモカタバミ、アメリカスミレサイシンのように逸出して草地や林縁に侵入している園芸植物、クスノキ、トウネズミモチのように雑木林の常緑林化を促進するもの、ニワウルシ、ハリエンジュ、タケ類などのように河川敷の樹林化を促進させるものなどが含まれている。これらの多くは、園芸種や造園樹種、緑化資材などとして利用されているものであるが、ひとたび野外に逸出すると抑制が困難な外来種となるので、とくに注意が必要である。

表 7. 府中市の外来種の対策カテゴリ別種数と生態系被害防止外来種リストへの掲載種数.

	府中市	生態系被害防止外来種リスト			
		緊急対策 外来種	重点対策 外来種	その他の総合 対策外来種	産業管理 外来種
防除推進外来種	53	3	13	9	6
影響監視外来種	144	1	3	19	11
定着防止外来種	12	0	3	1	1
計	209	4	19	29	18

府中市の対策を要する外来種のリスト

【防除推進外来種】

科名	和名 (*は国内外来種)	学名	定着度	拡大リスク	生態系被害	社会・経済的被害	生態系被害防止外来種リスト ／外来生物法におけるカテゴリ
クスノギ科	* クスノギ	Cinnamomum camphora	蔓延期	●	●		
トチカガミ科	オオカナダモ	Egeria densa	定着期	●	●	●	重点対策外来種
トチカガミ科	コカナダモ	Elodea nuttallii	定着期	●	●	●	重点対策外来種
キジカクシ科	オオアマナ, ホソバオオアマナ およびそれらの園芸品種	Ornithogalum umbellatum, O. orthophyllum	拡大期	●	●		
アヤメ科	シャガ	Iris japonica	蔓延期	●	●		
アヤメ科	キショウブ	Iris pseudacorus	拡大期	●	●		重点対策外来種
ヒガンバナ科	ハナニラ	Ipheion uniflorum	拡大期	●	●	●	その他の総合対策外来種
ヤシ科	* シュロ	Trachycarpus fortunei	蔓延期	●	●		
ツクサ科	ノハカタカラクサ, ミドリハカタカラクサ およびそれらの園芸品種	Tradescantia mundula, T. fluminensis	蔓延期	●	●		重点対策外来種
カヤツリグサ科	メリケンガヤツリ	Cyperus eragrostis	蔓延期	●	●		重点対策外来種
イネ科	メリケンカルカヤ	Andropogon virginicus	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
イネ科	イヌムギ	Bromus catharticus	蔓延期	●	●	●	
イネ科	シナダレスズメガヤ	Eragrostis curvula	蔓延期	●	●	●	重点対策外来種
イネ科	ネズミムギ, ホソムギ およびそれらの交雑種	Lolium multiflorum, L. perenne	蔓延期	●	●	●	産業管理外来種 (ドクムギ属)
イネ科	キシュウスズメノヒエ	Paspalum distichum var. distichum	拡大期	●	●	●	その他の総合対策外来種
イネ科	モウソウチク	Phyllostachys edulis	蔓延期	●	●	●	産業管理外来種 (タケ類)
イネ科	* マダケ	Phyllostachys reticulata	蔓延期	●	●	●	産業管理外来種 (タケ類)
イネ科	オオスズメノカタビラ	Poa trivialis	蔓延期	●	●	●	
イネ科	* ヤダケ	Pseudosasa japonica	定着期	●	●		
イネ科	* クマザサ	Sasa veitchii	拡大期	●	●		
イネ科	オニウシノケグサ	Schedonorus phoenix	蔓延期	●	●	●	産業管理外来種
イネ科	* オカメザサ	Shibataea kumasaca	定着期	●	●		
イネ科	セイバンモロコシ	Sorghum propinquum	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
ケシ科	ナガミヒナゲシ	Papaver dubium	蔓延期	●	●	●	
メギ科	ヒイラギナンテン	Berberis japonica	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種
アリノトウグサ科	オオフサモ	Myriophyllum aquaticum	蔓延期	●	●	●	緊急対策外来種／特定外来生物
マメ科	アレチヌスビトハギ	Desmodium paniculatum	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
マメ科	ハリエンジュ	Robinia pseudoacacia	蔓延期	●	●	●	産業管理外来種
マメ科	ナヨクサフジ	Vicia villosa subsp. varia	蔓延期	●	●	●	産業管理外来種 (外来クサフジ類)
バラ科	トキワサンザシ, ヒマラヤトキワサンザシ およびそれらの園芸品種	Pyracantha coccinea, P. crenulata	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種 (ピラカンサ類)
ニレ科	* アキニレ	Ulmus parvifolia	定着期	●	●		
ウリ科	アレチウリ	Sicyos angulatus	蔓延期	●	●	●	緊急対策外来種／特定外来生物

カタバミ科	イモカタバミ	Oxalis articulata	拡大期	●	●	●	
カタバミ科	ムラサキカタバミ	Oxalis corymbosa	蔓延期	●	●	●	
スミレ科	アメリカスミレサイシン	Viola sororia	拡大期	●	●		
ニガキ科	ニワウルシ (シンジュ)	Ailanthus altissima	蔓延期	●	●		重点対策外来種
アブラナ科	オランダガラシ	Nasturtium officinale	蔓延期	●	●	●	重点対策外来種
アカネ科	メリケンムグラ	Diodia virginiana	拡大期	●	●	●	
ヒルガオ科	* アオイゴケ	Dichondra micrantha	拡大期	●	●	●	
ヒルガオ科	マルバルコウ, アメリカアサガオ, マルバアサガオ およびそれらの園芸品種	Ipomoea coccinea, l. hederacea, l. purpurea	侵入期 ～拡大期	●	●	●	重点対策外来種 (外来ノアサガオ類)
ヒルガオ科	マメアサガオ, ホシアサガオ	Ipomoea lacunosa, l. triloba	侵入期	●	●	●	その他の総合対策外来種 (ホシアサガオ)
ナス科	ワルナスビ	Solanum carolinense	蔓延期	●	●	●	
モクセイ科	トウネズミモチ	Ligustrum lucidum	蔓延期	●	●		重点対策外来種
オオバコ科	オオカワヂシャ	Veronica anagallis-aquatica	蔓延期	●	●		緊急対策外来種/特定外来生物
クマツヅラ科	アレチハナガサ, ヤナギハナガサ およびそれらの近縁種	Verbena brasiliensis, V. bonariensis	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種 (アレチハナガサ類)
キク科	オオブタクサ (クワモドキ)	Ambrosia trifida	蔓延期	●	●	●	重点対策外来種
キク科	コセンダングサ コシロノセンダングサ	Bidens pilosa var. pilosa, B. pilosa var. minor	蔓延期	●	●	●	
キク科	アメリカタカサブロウ	Eclipta alba	蔓延期	●	●	●	
ウコギ科	カナリーキヅタ	Hedera canariensis	拡大期	●	●		
キク科	キクイモ	Helianthus tuberosus	蔓延期	●	●		
キク科	ブタナ	Hypochaeris radicata	蔓延期	●	●	●	
キク科	セイタカアワダチソウ	Solidago altissima	蔓延期	●	●	●	重点対策外来種
キク科	セイヨウタンポポ および在来種との交雑種	Taraxacum officinale	蔓延期	●	●	●	重点対策外来種

【影響監視外来種】

イワヒバ科	* イヌカタヒバ	Selaginella moellendorffii	定着期	●	●		
イノモトソウ科	* ホウライシダ	Adiantum capillus-veneris	定着期	●	●		
センリョウ科	* センリョウ	Sarcandra glabra	定着期	●	●		
クスノキ科	* タブノキ	Machilus thunbergii	定着期	●	●		
サトイモ科	* ムサシアブミ	Arisaema ringsens	定着期	●	●		
ユリ科	オニユリ	Lilium lancifolium var. laciniifolium	拡大期	●	●		
ユリ科	シンテッポウユリ	Lilium × formolongo	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種
ユリ科	* タイワンホトトギス	Tricyrtis formosana	定着期	●	●		
アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	Crocasmia × crocosmiiflora	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種
ヒガンバナ科	ニラ	Allium tuberosum	蔓延期	●	●	●	
ヒガンバナ科	ヒガンバナ	Lycoris radiata	蔓延期	●	●		
ヒガンバナ科	スイセン	Narcissus tazetta var. chinensis	拡大期	●		●	
ヒガンバナ科	ハタケニラ	Nothoscordum gracile	定着期	●		●	
キジカクシ科	ムスカリ およびその園芸品種	Muscari neglectum	拡大期	●	●		
キジカクシ科	* ノシラン	Ophiopogon jaburan	定着期	●	●		

アヤメ科	ニワゼキショウ	Sisyrinchium rosulatum	蔓延期	●	●	●	
ツククサ科	* マルバツククサ	Commelina benghalensis	拡大期	●		●	
ツククサ科	ムラサキツククサ	Tradescantia ohimensis	定着期	●	●	●	
イグサ科	コゴメイ	Juncus polyanthemus	定着期	●	●		重点対策外来種
カヤツリグサ科	キハマスゲ	Cyperus esculentus	定着期	●		●	
イネ科	コヌカグサ	Agrostis gigantea	蔓延期	●	●	●	産業管理外来種
イネ科	ハイコヌカグサ	Agrostis stolonifera	蔓延期	●	●		
イネ科	ハルガヤ	Anthoxanthum odoratum subsp. odoratum	蔓延期	●	●		その他の総合対策外来種
イネ科	コバンソウ	Briza maxima	蔓延期	●		●	
イネ科	ヒメコバンソウ	Briza minor	蔓延期	●	●		
イネ科	ジュズダマ	Coix lacryma-jobi var. lacryma-jobi	蔓延期	●	●	●	
イネ科	カモガヤ	Dactylis glomerata	蔓延期	●		●	産業管理外来種
イネ科	コスズメガヤ	Eragrostis minor	蔓延期	●		●	
イネ科	ムギクサ	Hordeum murinum	定着期	●		●	
イネ科	コネズミガヤ	Muhlenbergia schreberi	拡大期	●	●	●	
イネ科	オオクサキビ	Panicum dichotomiflorum	蔓延期	●	●		その他の総合対策外来種
イネ科	シマスズメノヒエ	Paspalum dilatatum	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
イネ科	ツルスズメノカタビラ	Poa annua var. reptans	定着期	●	●	●	
イネ科	ナガハグサ	Poa pratensis	蔓延期	●		●	
イネ科	ナギナタガヤ	Vulpia myuros var. myuros	蔓延期	●		●	産業管理外来種
ケシ科	シラユキゲシ	Eomecon chionantha	拡大期	●	●		
メギ科	* ナンテン	Nandina domestica	蔓延期	●	●		
ユズリハ科	* ユズリハ	Daphniphyllum macropodum var. macropodum	拡大期	●	●		
ベンケイソウ科	ツルマンネングサ	Sedum sarmentosum	蔓延期	●	●		
ベンケイソウ科	ヨコハママンネングサ およびその近縁の園芸品種	Sedum sp.	定着期	●	●		
マメ科	クスダマツメクサ	Trifolium campestre	定着期	●	●	●	
マメ科	コメツブツメクサ	Trifolium dubium	蔓延期	●	●	●	
マメ科	ムラサキツメクサ (アカツメクサ)	Trifolium pratense	蔓延期	●	●	●	
マメ科	シロツメクサ	Trifolium repens	蔓延期	●	●	●	
バラ科	ビワ	Eriobotrya japonica	拡大期	●	●		産業管理外来種
バラ科	コバナキジムシロ	Potentilla amurensis	定着期	●	●	●	
バラ科	* カナメモチ	Photinia glabra	定着期	●	●		
バラ科	* シャリンバイ	Rhaphiolepis indica var. umbellata	拡大期	●	●		
グミ科	* ナワシログミ	Elaeagnus pungens	拡大期	●	●		
クワ科	マグワ	Morus alba	拡大期	●	●		
イラクサ科	ナンバンカラムシ	Boehmeria nivea var. nivea	定着期	●	●	●	
ニシキギ科	* マサキ	Euonymus japonicus f. japonicus	拡大期	●	●		
カタバミ科	ハナカタバミ、ベニカタバミ およびそれらの園芸品種	Oxalis bowieana O. braziliensis	定着期	●	●		
カタバミ科	オッタチカタバミ	Oxalis dillenii	蔓延期	●	●	●	
カタバミ科	オオキバナカタバミ	Oxalis pes-caprae	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種
オトギリソウ科	コゴメバオトギリ	Hypericum perforatum subsp. chinense	蔓延期	●	●		
トウダイグサ科	コニシキソウ	Euphorbia maculata	蔓延期	●		●	

トウダイグサ科	オオニシキソウ	Euphorbia nutans	蔓延期	●	●	●	
コミカンソウ科	ナガエコミカンソウ	Phyllanthus tenellus	拡大期	●		●	
フウロソウ科	アメリカフウロ	Geranium carolinianum	蔓延期	●	●	●	
ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ	Ammannia coccinea	拡大期	●		●	
アカバナ科	メマツヨイグサ, アレチマツヨイグサ	Oenothera biennis, O. parviflora	蔓延期	●	●	●	
アカバナ科	コマツヨイグサ	Oenothera laciniata	蔓延期	●	●	●	重点対策外来種
アカバナ科	ユウゲショウ	Oenothera rosea	蔓延期	●	●	●	
ムクロジ科	トウカエデ	Acer buergerianum	定着期	●	●		
センダン科	* センダン	Melia azedarach	拡大期	●	●		
アオイ科	イチビ	Abutilon theophrasti	定着期	●		●	
アオイ科	ゼニアオイ, ゼニバアオイ, ナガエアオイ, ウサギアオイ およびその他の外来アオイ属	Malva mauritiana, M. neglecta, M. pusilla, M. parviflora	定着期 ~拡大期	●		●	
アオイ科	キクノハアオイ	Modiola caroliniana	定着期	●		●	
アブラナ科	カラシナ	Brassica juncea	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
アブラナ科	セイヨウアブラナ	Brassica napus	蔓延期	●	●	●	
アブラナ科	ミチタネツケバナ	Cardamine hirsuta	蔓延期	●		●	
アブラナ科	カキネガラシ	Sisymbrium officinale	蔓延期	●	●	●	
アブラナ科	ショカツサイ	Orychophragmus violaceus	蔓延期	●		●	
タデ科	シャクチリソバ	Fagopyrum cymosum	拡大期	●		●	その他の総合対策外来種
タデ科	ヒメツルソバ	Persicaria capitata	定着期	●	●		
タデ科	ヒメスイバ	Rumex acetosella subsp. pyrenaicus	蔓延期	●	●		その他の総合対策外来種
タデ科	アレチギンギシ	Rumex conglomeratus	蔓延期	●	●	●	
タデ科	ナガバギンギシ	Rumex crispus	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
タデ科	エゾノギンギシ	Rumex obtusifolius	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
ナデシコ科	オランダミミナグサ	Cerastium glomeratum	蔓延期	●		●	
ナデシコ科	ムシトリナデシコ	Silene armeria	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種
ナデシコ科	イヌコハコベ	Stellaria pallida	拡大期	●	●	●	
ヒユ科	イヌビユ	Amaranthus blitum	蔓延期	●		●	
ヒユ科	ホソアオゲイトウ	Amaranthus hybridus	蔓延期	●		●	
ヒユ科	ホナガイヌビユ (アオビユ)	Amaranthus viridis	蔓延期	●		●	
ヒユ科	コアカザ	Chenopodium ficifolium	蔓延期	●		●	
ヒユ科	アリタソウ (ケアリタソウ)	Dysphania ambrosioides	蔓延期	●	●		
ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	Phytolacca americana	蔓延期	●	●	●	
オシロイバナ科	オシロイバナ	Mirabilis jalapa	蔓延期	●	●		
ハゼラン科	ハゼラン	Talinum paniculatum	拡大期	●	●		
カキノキ科	カキノキ	Diospyros kaki var. kaki	拡大期	●	●		
サクラソウ科	* マンリョウ	Ardisia crenata	蔓延期	●	●		
ツバキ科	チャノキ	Camellia sinensis	拡大期	●	●		
サカキ科	* モッコク	Ternstroemia gymnanthera	拡大期	●	●		
マタタビ科	オニマタタビ (キウイフルーツ)	Actinidia chinensis var. deliciosa	拡大期	●	●		産業管理外来種
アカネ科	ハナヤエムグラ	Sherardia arvensis	蔓延期	●		●	
キョウチクトウ科	ツルニチチソウ	Vinca major	拡大期	●	●		重点対策外来種

ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	Cuscuta campestris	定着期		●	●	その他の総合対策外来種
ナス科	ヨウシュチョウセンアサガオ	Datura stramonium var. stramonium	定着期	●		●	その他の総合対策外来種(チョウセンアサガオ類)
ナス科	テリミノイヌホオズキ, オオイヌホオズキ, アメリカイヌホオズキ およびその他の外来イヌホオズキ類	Solanum americanum, S. nigrescens, S. ptychanthum	定着期 ～蔓延期	●	●	●	
モクセイ科	* シマトネリコ	Fraxinus griffithii	侵入期	●	●		
オオバコ科	ツタバウンラン	Cymbalaria muralis	拡大期	●	●	●	
オオバコ科	マツバウンラン	Nuttallanthus canadensis	蔓延期	●		●	
オオバコ科	ヘラオオバコ	Plantago lanceolata	蔓延期	●	●		
オオバコ科	ツボミオオバコ	Plantago virginica	蔓延期	●	●	●	
オオバコ科	タチイヌノフグリ	Veronica arvensis	蔓延期	●		●	
オオバコ科	オオイヌノフグリ	Veronica persica	蔓延期	●		●	
アゼナ科	タケトアゼナ	Lindernia dubia subsp. dubia	拡大期	●	●	●	
アゼナ科	アメリカアゼナ	Lindernia dubia subsp. major	蔓延期	●	●	●	
シソ科	* コムラサキ	Callicarpa dichotoma	定着期	●	●		
シソ科	ボタンクサギ	Clerodendrum bungei	拡大期	●	●		
シソ科	ヒメオドリコソウ	Lamium purpureum	蔓延期	●		●	
シソ科	ヨウシュハッカ, オランダハッカ, マルバハッカ, コショウハッカ およびその他の外来ハッカ類	Mentha arvensis, M. spicata 'Crispa', M. suaveolens, M. × piperita	侵入期	●	●	●	
シソ科	コウスイハッカ	Melissa officinalis	定着期	●	●	●	
ハマウツボ科	ヤセウツボ	Orobanche minor var. minor	拡大期	●	●		
モチノキ科	* クロガネモチ	Ilex rotunda	定着期	●	●		
キキョウ科	ヒナキキョウソウ	Triodanis biflora	蔓延期	●		●	
キキョウ科	キキョウソウ	Triodanis perfoliata	蔓延期	●		●	
キク科	ブタクサ	Ambrosia artemisiifolia	蔓延期	●		●	
キク科	アメリカセンダングサ	Bidens frondosa	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
キク科	アメリカオニアザミ	Cirsium vulgare	拡大期	●	●	●	その他の総合対策外来種
キク科	オオキンケイギク	Coreopsis lanceolata	拡大期	●	●		緊急対策外来種/特定外来生物
キク科	ハルシャギク(ジャノメギク)	Coreopsis tinctoria	蔓延期	●	●		その他の総合対策外来種
キク科	ベニバナボロギク	Crassocephalum crepidioides	蔓延期	●		●	
キク科	ダンドボロギク	Erechtites hieraciifolius var. hieraciifolius	拡大期	●		●	
キク科	ヒメジョオン	Erigeron annuus	蔓延期	●	●	●	その他の総合対策外来種
キク科	アレチノギク	Erigeron bonariensis	蔓延期	●	●	●	
キク科	ヒメムカシヨモギ	Erigeron canadensis	蔓延期	●	●	●	
キク科	ハルジオン	Erigeron philadelphicus	蔓延期	●	●	●	
キク科	オオアレチノギク	Erigeron sumatrensis	蔓延期	●	●	●	
キク科	ウラジロチチコグサ	Gamochaeta coarctata	蔓延期	●	●	●	
キク科	チチコグサモドキ	Gamochaeta pensylvanica	蔓延期	●	●	●	
キク科	ノボロギク	Senecio vulgaris	蔓延期	●	●	●	
キク科	ノゲシ	Sonchus oleraceus	蔓延期	●		●	
キク科	ヒロハハウキギク	Symphyotrichum subulatum var. squamatum	蔓延期	●	●	●	
キク科	ハウキギク	Symphyotrichum subulatum var. subulatum	定着期	●	●		

キク科	オオオナモミ	Xanthium orientale	拡大期	●	●		その他の総合対策外来種
ガマズミ科	* サンゴジュ	Viburnum odoratissimum var. awabuki	拡大期	●	●		
スイカズラ科	ノヂシャ	Valerianella locusta	蔓延期	●	●		
トベラ科	* トベラ	Pittosporum tobira	定着期	●	●		
ウコギ科	* カクレミノ	Dendropanax trifidus	拡大期	●	●		
ウコギ科	* ヤツデ	Fatsia japonica	拡大期	●	●		
ウコギ科	セイヨウウキヅタ	Hedera helix	拡大期	●	●		

【定着防止外来種】

ミズアオイ科	ホテアオイ	Eichhornia crassipes	侵入期	●	●	●	重点対策外来種
イネ科	チャボウシノシツペイ	Eremochloa ophiuroides	侵入期	●	●	●	
イネ科	アメリカスズメノヒエ	Paspalum notatum	侵入期	●	●	●	産業管理外来種
メギ科	ホソバヒイラギナンテン ナリヒラヒイラギナンテン およびそれらの園芸品種	Berberis fortunei B. eurybracteata	侵入期	●	●		
マメ科	イタチハギ	Amorpha fruticosa	侵入期	●	●		重点対策外来種
マメ科	セイヨウミヤコグサ	Lotus corniculatus var. corniculatus	侵入期		●		
カタバミ科	サンカクカタバミ	Oxalis triangularis	侵入期	●	●		
ムクロジ科	* ムクロジ	Sapindus mukorossi	侵入期	●	●		
クマツヅラ科	ヒメイワダレソウ	Phyla nodiflora var. minor	侵入期	●	●		重点対策外来種
シソ科	セイヨウキランソウ	Ajuga reptans	侵入期	●	●		
キク科	ペラペラヨメナ	Erigeron karvinskianus	侵入期	●	●		その他の総合対策外来種
キク科	メリケントキンソウ	Soliva sessilis	侵入期	●		●	

引用文献

府中市（2023）第3次府中市環境基本計画.

環境省（2020）環境省レッドリスト 2020 (<https://www.env.go.jp/press/107905.html>).

IUCN(2012) IUCN レッドリストカテゴリーと基準 3.1 版改訂 2 版. (矢原徹一・金子与止男 訳)

Rabinowitz, D. (1981) Seven forms of rarity. In: Biological aspects of rare plant conservation (eds. Synge, H.), 205-217.

東京都環境局自然環境部 編（2023）東京都レッドデータブック 2023—東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）解説版一.

吉川正人（2024）府中市の植物と植生. 「新府中市史 自然編」（府中市編），179-314.